外国にルーツをもつ生徒の未来に向けて　～県立高等学校での取り組み～

近年、日本に住む外国人の増加に伴い、外国にルーツをもつ児童・生徒の数も増加しています。皆さんの周りでも外国にルーツをもつ生徒が学級にいることが珍しくなくなっているのではないでしょうか。

愛知県の小・中・高等学校には、全国で最も多い 16,814 人の外国人児童・生徒が在籍しています。（2021 年 5 月 1 日現在　文部科学省「学校基本調査」より）

外国人の子どもは、日本人と同様に無償で教育を受ける機会が保障されています。さらに、中学校を卒業もしくは、それに相当する教育を終えている場合は、高校入試に出願することができます。

愛知県では、「外国につながる子どもたちの進路開拓・進路応援ガイドブック」を作成し、進路指導を行ったり、高校入試で外国人生徒等選抜を実施したりして、外国人生徒への支援を進めています。

外国人児童・生徒の日本語の習熟の程度は様々で、日本語での学びに問題のない生徒もいれば、日本語での日常会話が不十分な生徒や、たとえ日常会話ができても、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じている生徒もいます。特に、愛知県では、公立の高等学校、中等教育学校及び特別支援学校を含め日本語指導の必要な生徒は 492 人で、2010 年度の約 4 倍となっています。（文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（2018 年度）」）そのため、外国にルーツをもつ生徒の多い愛知県の高等学校では、生徒が安心して学習できるよう様々な取り組みを行っています。

今回、外国にルーツをもつ生徒が多く通っている愛知県立衣台高等学校（全日制課程）と愛知県立明和高等学校（定時制課程）で実施されている日本語指導についてお話を伺ってきました。

愛知県立衣台高等学校（全日制課程）

全日制普通科に情報ビジネスコースが併設されています。外国人生徒には外国人生徒等選抜[※i]を実施していますが、一般入試で入学した外国人生徒や、母国で中学校を卒業して受検した生徒もおり、生徒の日本語のレベルは様々です。全校生徒 463 名のうち約 50 名の生徒（2022 年度）が日本語指導が必要であるとされています。入学後に実施する日本語テストの結果を踏まえ、一人一人のレベルに応じた日本語指導を行っています。

取り出し授業とは？

・一部の授業を日本語指導の必要な生徒のみで行います。
・授業は日本語で、一般の教員が行います。
・教科書・補助教材は普通の授業と同じものを使用し、重要な言葉を取り出し、わかりやすく説明して生徒の理解を促します。
・1 年生 5 科目、2 年生 7 科目・3 年生 4 科目に実施（2022 年）
・定期考査の問題は普通の授業とは原則異なり、問題文にはルビがついています。

▲取り出し授業の様子

放課後日本語教室について

・週 1 回、火曜日の授業後に日本語の勉強、日本語能力試験のサポート、教科学習支援などを行っています。日本語能力試験のサポートは、N1、N2、N3 と 3 つのレベルに分かれて勉強しています。
・指導者は、教員、外国人生徒教育支援員、日本語教育支援員、ボランティアなどで構成されています。

外国人生徒教育支援員の活動

ポルトガル語・中国語・タガログ語・ウルドゥー語・スペイン語の支援員が、必要に応じて以下のサポートを行っています。

1. 取り出し授業や普通授業での授業内容のサポート
2. 保護者との会話のサポート（保護者会や個別の懇談など）
3. 外国人生徒の精神的サポート（母語での相談）

▲外国人生徒教育支援員による指導

外国人保護者進路説明会の実施

年に一度、保護者向けに説明会を開き、卒業後の就職、進学のための入試システム、奨学金や教育ローンについて紹介します。外国人生徒教育支援員にも参加していただき、会話のサポートをしてもらいます。

生徒に聞きました

王　建（おうたけし）さん　（普通科 2 年生　中国出身）

小学校 5 年で来日しました。曾祖母が日本人で、「外国人生徒・中国帰国生徒等の入試」を受けました。小学・中学校の取り出し授業では、1 対 1 で日本語指導を受けたり、友達と積極的に話をしたりして日本語を学び、昨年 N1 を取得しました。将来は、大学・大学院に進み心理カウンセラーの資格を取りたいと考えています。また、太宰治や中国の作家が好きなので、文学部に進み作家になることも夢の一つです。

愛知県立明和高等学校（定時制課程）

午後5時から午後8時55分までの時間帯で授業を行う夜間定時制で、アルバイト等、仕事をしながら通っている生徒もいます。出身中学校長等から「外国人生徒等にかかる受検上の配慮に関する申請書」が提出された入学志願者について、基礎学力検査を行う場合、漢字にルビを振るなどの受検上の配慮が行われています。2022年度は1学年、約22名が入学し、その約半数が外国にルーツをもつ生徒で、約10名が日本語指導が必要な生徒です。生徒の背景によって日本語や学習言語の能力には差があります。

日本語指導担当の笹山先生に支援についてお話を聞きました。

この学校に来て12年になりますが、当時の教頭先生が国語の時間にサポートが必要な生徒を別の教室に集めて教えていらっしゃいました。それを引き継ぎ、日本語教育の視点から効果的な指導方法を組み立てました。

1人1人に寄り添った指導

国語の必履習科目の取り出し授業では、習熟度別にクラスを編成し、教材はリライトしたものや、やさしい日本語で書かれている文章を使ったりしています。

生徒の日本語のレベルはバラバラです。小学校・中学校の勉強を終え、ある程度の日本語能力を身に付けていると、教科の内容をより深く理解できます。しかし、中学校を卒業していても、日本と他の国を行き来するなどして学習が十分に終えられていない場合は、高校の学習内容を理解するのが非常に困難です。また、学習が不十分な生徒でも、ある程度の期間日本の学校に通い、学校のルールや仕組みがわかっていると、スムーズに学校の生活に馴染めますが、そうでない場合は、日本の学校生活に馴染めないことがあります。どの生徒でも、一人一人の状況を探り、その子のできることを引き出せるようなサポートをしていくことが重要です。県から配置された日本語教育支援員の方には、初期支援を担当してもらい、生徒は授業につながる日本語を学んでいます。しかし、それ以上に担任を含め、学校全体でサポートしていくという姿勢が大切だと思います。

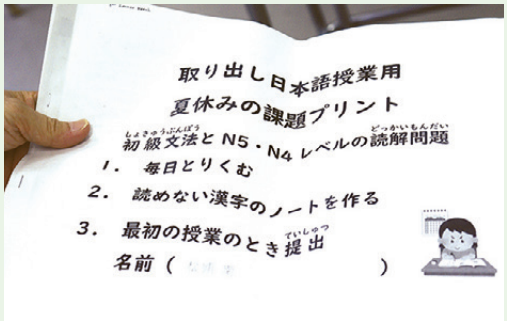
▲日本語指導教室の様子

頼れる先輩のような存在の外国人生徒教育支援員

外国人生徒教育支援員には、ネパール語、英語、中国語を母語とする生徒への支援をしていただいています。子どもたちにとっては、年の近い同郷の先輩がそばにいて生活などにもアドバイスをしてくれるのはとても心強く、精神面での安定につながっています。本年度より配置された日本語教育支援員とともに、かなり多方面からの支援が可能となりました。

インクルーシブな社会へ向けて

来年度より、高校においても「特別の教育課程」を編成して行う日本語指導が、卒業に必要な単位として認められるようになります。こうした日本語指導と必履修科目の「取り出し授業」との併用でそれぞれの生徒によりきめ細やかな教育の機会を提供することにより、生徒たちが、自分の得意なことを活かして、日本で活躍できるようにしていきたいと思います。



▲夏休みの宿題

生徒に聞きました

アルベンティア・トリキシー・カイルさん（2年生　フィリピン出身）

9歳で来日しました。日本語の勉強を頑張り、今年7月にN2に合格しました。来年には、N1合格を目指しています。将来に向けてTOEICも受ける予定です。将来は大学に進み、得意な英語を活かして通訳になりたいと考えています。

※i　正式には「外国人生徒等にかかる入学者選抜」と言い、2023年度入試からは愛知県立高等学校12校で実施予定です。学力検査は、国語・数学・外国語（英語）の3教科を一つにまとめた基礎的な内容で、問題の漢字にはひらがなのルビを付しています。面接については、外国人生徒等の事情に配慮しつつ、個人面接を行います。出願できるのは、保護者とともに県内に在住し、外国籍をもつ人または保護者が外国籍をもつなど特別な事情があると認められる人のうち、日本の小学校の第4学年以上の学年に編入した人、または、入国後の在日期間が6年以内の人です。なお、日本の小学校の第3学年以下の学年に編入学した人でも、出入国を繰り返している人など、特別な事情がある場合には、出願資格を認めることがあります。